

シネマ&フォーラム'95

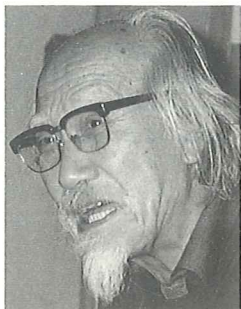
上田を撮った人と映画

●日時/3月20日(月) 午後6:30 (開場午後6:00)

●場所/上田映劇 TEL.0268-22-0269

上映作品「けんかえれじい」(66日活、鈴木清順監督)

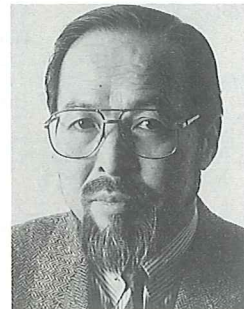
出演/高橋英樹、浅野順子、川津祐介



Seijun Suzuki
(映画監督)

鈴木清順 VS 品田雄吉

《特別座談会》



Yukichi Shinada
(映画評論家・多摩美術大学教授)

●チケット料金/おとな800円(当日1,000円) 高校生以下400円

●販売所/市内中心商店街各店・上田市商工課窓口・上田商工会議所・上田映劇

お問い合わせは…上田商業21世紀会事務局 TEL.0268-22-4100 上田市役所商工課内

●主催/上田商業21世紀会●共催/ムービークラブ●後援/上田市、上田商工会議所●協賛/信越放送、長野放送、テレビ信州、長野朝日放送

当日はガイドマップ
「うえだ街歩き」を
差し上げます。

シネマ&フォーラム'95開催にあたって

CINEMA& FORUM'95

上田をロケーションの地として、あるいは舞台として撮影された映画がたくさんあることをご存じですか。

例えば、「次郎物語」「姿三四郎」「青い山脈」「犬神家の一族」「男はつらいよ・寅次郎純情詩集」などなどたくさんあるのです。そこで、そんな映画を皆で見て、さらには撮影した方々のお話をお聞きして、上田という地域を再認識できたらいいなあ…というのが「シネマ&フォーラム」の主旨です。今回は、映画「けんかえれじい」の上映と、その監督をなさって現在も活躍中の鈴木清順監督をお招きし、当時の上田のことや、映画にまつわるお話しをしていただけることになりました。映画はもちろん傑作の誉れ高い作品であり、その舞台は岡山と会津ですが、上田でロケをしたシーンが随所に出てきて、なつかしい上田の風景を見ることができます。なぜ監督がこの場所をロケ地として選んだのかを想像してみてもおもしろいと思います。解答は監督自身から当日、直接お聞きすることにいたしましょう。なお現在、この作品に限らず、上田で映画のロケをしていた様子をご存じの方々から、様々なエピソードや話題をたくさん提供していただいております、それらは当日ご紹介する予定です。



けんかえれじい（'66.日活・鈴木清順監督作品）

『解説』

喧嘩に明け暮れながら青春期を終えてゆく、昭和前期の硬派（旧制）中学生を描いた、鈴木清順監督の傑作。岡山中学校の名物男・南部麒六（高橋英樹）は、喧嘩の大先輩スッポン（川津祐介）と、あこがれの娘・道子（浅野順子）の二人を硬軟両極と見え、それにさまざまな形で影響されながら、喧嘩街道を大ばく進する。痛烈なアクション、おおらかなユーモア、その間にきらめくリリシズム、それらが合体して見事な青春絵巻を展開、演出・鈴木清順の名はここで初めて正当な評価を得た。

後半、北一輝の瞬間的登場を経て、戦乱を暗示しながら終わる画面の中に、なおも輝きながら突き進む南部麒六のイメージは、まちがいないひとつの昭和の姿である。山本直純の音楽、萩原憲治のカメラ、木村威夫の美術、麒六をとりまく多数の青春群像、それぞれ大いに評価すべき熱演だった。原作は鈴木隆の同名小説で、新藤兼人が脚色。（86分）

「キネマ旬報」より



《特別座談会》

鈴木清順 Suzuki Seijun

1923年5月24日 東京都生まれ

旧制弘前高等学校卒業後

'48年 松竹大船撮影所助監督部入社

'54年 日活撮影所助監督契約

'56年 監督昇進

'67年 契約解除、以後フリーとなり現在に至る

●監督作品／けんかえれじい、東京流れ者、関東無宿、悪太郎、殺しの烙印、悲愁物語、ツイゴイネルワイゼン、陽炎座、カボネ大いに泣く、夢二、他
●出演／奥の細道（テレビ朝日）、わが心の旅（NHK衛星）、グッドモーニング（フジテレビ）他

品田雄吉 Shinada Yukichi

1930年 北海道生まれ

'53年 北海道大学法文学部卒。

同年、映画雑誌「キネマ旬報」編集部入社。

'65年 フリーで映画評論活動始める。

'89年 多摩美術大学美術学部二部教授・学部長。他に、武蔵野女子大学講師、跡見女子短期大学講師、文化庁芸術選奨選考委員、文化庁在外研修員選考委員、大蔵省関税等不服審査会輸入映画部会長、国立近代美術館フィルムセンター運営委員などを務めている。著書「監督のいる風景」「銀幕の恋人たち」など。